

一九八四年二月二十五日
発行刷



第67卷 第2号

史学・地理学・考古学

論 説

- 葛川・伊香立庄相論考……………下 坂 守 (1)
——鎌倉期における葛川住人と伊香立庄百姓の争い——
- 宋太祖弑害説と上清太平宮……………愛 宕 元 (51)
- マキャヴェリの思想の原点……………柴 山 英 一 (80)
——彼の常用語を通じて見た——

研究ノート

- 安藤昌益研究の展開……………三 宅 正 彦 (106)
——戦前・戦中編——
- ビーカー土器考……………宇 野 隆 夫 (123)
——イギリス青銅器時代のはじまり——

書 評

- 谷川稔著『フランス社会運動史』……………川 越 修 (152)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

これまでの歴史の解釈と異った理解の方法もありうるのではなからうか。私はかつて

木華黎王国の性格や元朝の華南政策の特殊性、明代の洪武帝の華南中心政策と永楽帝の華北重視政策や土木変後の動揺に見られた南北問題など断片的に南北問題に関心を持って発表してきた。端的に言えば、北アジアは軍事に優れ経済に弱く、華北は政治に優れ軍事経済は並である。華南は経済に強く軍事に弱い。東南アジアは自然条件は恵まれているが、政治軍事に弱く経済にも弱い。

これらの四地区の特性を踏えて、歴史上の諸現象を例えば統一の利点と弱点、分裂の弱点と利点などを考慮に入れて総合的に研究すれば、更に分り易い歴史が書けるのではなからうかというのが私の考えである。

訂正

本誌六卷第三号（一九八三年五月一日発行）所載の金田章裕氏の論文（唐代中国および律令期日本における土地表示法）の第五図（二五頁）に誤りがありますので、次のように訂正させていただきます。

二五頁第五図の中の「左京坊内の坪」のうち、上から下に向って付されている5、8、13、16の番号を、下から上に向って逆につす。

1	8	9	16
2	7	10	15
3	6	11	14
4	5	12	13

(正)

1	5	9	13
2	6	10	14
3	7	11	15
4	8	12	16

(誤)

編集後記

三月も後半というのにまだまだ寒いが続いています。今年の冬は殊に厳しい寒さの毎日でした。この寒さと近年まれに見る大雪の為とは申しませんが、またも本誌の刊行が遅れてしまいましたことをおわび申し上げます。しかしながら、本号には論説3本、研究ノート2本、書評と各分野から盛り沢山の内容を集めて掲載出来、充実したものとなりました。御検討下さい。さて、七年間に亘り編集委員を務めてこられた西山良平氏が委員を交代されることになりました。長年の御努力に心より感謝したいと思います。

(井)

一九八四年三月二五日印刷 定価九〇〇円
 一九八四年三月一日発行
 史 林 第六七巻第二号（通巻第三四号）
 京都市左京区吉田本町
 京都大学文学部
 発行人 史 学 研 究 会
 理事長 岸 俊 男
 振替京都七五一五五番
 京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
 印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXVII No. 2 Mar. 1984

CONTENTS

Article :

- Lawsuits between *Katsuragawa* 葛川
and *Ikadachi-no-sho* 伊香立庄M. Shimosaka (1)
—the People in *Katsuragawa* and the Peasants
in *Ikadachi* in the *Kamakura* 鎌倉 age—
- A rumor that *Song Taizu* 宋太祖 was murdered and
Taoist temple *Shang-qing-Tai-ping-gong* 上清太平宮H. Otagi (51)
- The Origins of Machiavelli's ThoughtE. Shibayama (80)
—As Revealed by His Choice of Expressions—

Note :

- Development of the Studies on
Ando Shoeki 安藤昌益 in Japan (1)M. Miyake (106)
- A Study of Beaker PotteryT. Uno (123)

Book Review :

- Minoru Tanigawa, *L'histoire du mouvement
social en France*O. Kawagoe (152)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369